

まちづくりミーティング開催結果概要



開催テーマ つながり、支え合える子育て環境づくり

参加者

メリーのいえ 4名
桐生市長

傍聴者 2名
報道機関 2名

日時：令和4年7月26日（火）午前10時から11時
場所：桐生市保健福祉会館 502会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 自己紹介

4 議 題

つながり、支え合える子育て環境づくり

意見交換のポイント

- 子どもの発達や不登校など、子育ての悩みや不安を抱える方への関わりを通じて感じていること
- つながり、支え合える子育て環境づくりのために桐生市と共創したいこと 等

5 閉 会

テーマ：つながり・支えあえる 子育て環境づくり

- ▶ 子育てをしている親が悩んだ時に「孤立せず」同じように悩んでいる人や、見守ってくれる人と「心地よい距離感（安心・安全）」で繋がりがあえる。
- ▶ つながりあうとは子育てに正解はなく、それぞれが「自分や子どもにとっての良い塩梅」を考え、選択していくことが大切。それをお互いにジャッジせず認め合える。支えあい。

メリーのいえから見た子育て支援の課題

- ▶ 悩みのある人の孤立（誰に相談してよいかわからない、話せない）
- ▶ 不安（このままでこれからどうなっていくのか？ 将来は？）～これらの悪循環に陥っている～
- ▶ 思考も、親子・夫婦など人間関係も凝り固まっている
- ▶ そのため、落ち着いた柔軟な判断がされにくい～2次的な障害や問題の発生～

子育てメンターの活動・役割

- ▶ 自らも子育てを通じて、さまざまな悩みや試行錯誤を経験している。
- ▶ 自らの体験を参加者に語り、参加者の話に耳を傾け、寄り添う。
- ▶ 参加者と同じ目線、同じ一人の親としてかわかる。
- ▶ 自らの試行錯誤してきた経験が、参加者の助けや力になる体験をすることで、自らも自身や活力を得ることができる。

未来の子育て環境に向けて

- ▶ 「どんな家庭に生まれた、どんな特性のある子ども、のびのびと輝いて成長していけるように」
- ▶ 孤立せず、程よい距離感でつながり続けられる子育て支援
- ▶ 親同士の支えあえる場を広げる（公共の場・学校）
- ▶ 子どもも含めた居場所づくり

メリーのいえの取組



メリーのいえの設立

自分の理学療法士と子育ての経験から、「同じような境遇で子育てを頑張っている誰かに会ってみたい」、「一緒に発達障害の子の育て方ならでは話したい」、「前向きに楽しく子育てをしていきたいと考えていたが、身近にそうした場が見つからなかった。

そこで、「愚痴を吐き出す場」ではなく、「お互いの体験や思いをジャッジせず語り合い、つながれる場」を作りたいと考え、Nobody's Perfect 完璧な親なんていない（ザ・プロ・プログラム）の手法を取り入れた座談会として開始した。

活動内容

【自由な交流の場（メリーのへや）】

どなたでも気軽に参加できるフリートークの場を月に1回、対面形式とオンライン形式で設けており、北は北海道、南は徳島県の方が参加し、交流を図っている。

【テーマを決めた座談会や研修会】

共通の関心事のある人同士のつながりを創る取組として、テーマを絞った座談会を実施している。先日、発達障害や学校に馴染めていない子どもたちのママを対象に座談会を開催した。今後、就学前の子どもを持つママのための座談会を予定している。

【ワークショップ】

会話が苦手な方でも参加できるよう、物作りなどの趣味的な活動などを通じて交流を図っており、お父さんと親のリフレッシュやストレス解消につなげている。

【アイロニくらぶ】

学校生活になじめない子どもとその家族のための第三の居場所として、「親子参加型フリースペース」を設けている。そこでは、子どもはくつろいで過ごし、親は子どもが目の届く距離でありながら、息が付けれる場となるよう、取り組んでいる。

2022年の新たな取組

これまでは一人で活動に取り組んできたが、色々な世代で色々な体験をしたお母さん方同士の共有が重要と考え、「子育てメンター」制度の導入を行った。

また、子育ての体験談等を伝え、考え方を知ってもらう取組として、講演会を開催している。

支え合える場を広げる

どんな家庭に生まれた、どんな特性のある子ども、のびのびと輝いて成長していける未来を目指したい。メリーのいえでは、子育て中のお母さん、お父さん、家族の方にアプローチしているが、一番はその先にいるお子さんのことを考えている。

子どもにとって、親、家族は一番身近な文化、環境なので、子どもの特性の問題や学校になじめないといったことがあったときに、どんなふうに捉え、支えたいかは、子どもにとってすごく大きく、子どもの将来を大きく左右すると感じている。

そのため、親、保護者同士の支え合える場を広げていくことが重要であると考え、取り組んでいる。



多様な学びの場や第三の子ども の居場所に関する情報発信

（意見）

子どもが学校になじめないとなつた際、子どもの学びを止めないよう、それぞれに合った学びの場を見付けようと試行錯誤したが、どんな学びの場があるのかについての情報がまとまっておらず、案内をしてくれる人もいなかった。大変だった。そのため、オルタナティブスクールなどの多様な学びの場に関する情報にたどり着きやすくなる仕組みが必要ではないかと考える。

市と教育委員会、オルタナティブスクール等の多様な学び場を提供する関係者が横につながりを持ち、学校や行政で多様な学びの場があることが紹介できるようにして、子どもが自分に合った学びの場を選ぶ環境ができるとうい。

そうした仕組みがあることにより、親はもっと安心できる。

（意見）

メリーのいえでは、群馬県内のオルタナティブスクールやフリースクールなど、学校以外の学び場や子どもの居場所となるリストを作成し、相談があった場合等に活用している。行政からそうした情報を発信することは難しいかもしれないが、こうした情報を早く得られることで、安心感につながるので、よろしく願いたい。

（市長）

情報は早ければ早いほど良い。必要となる情報が提供できるよう、こういった手法であればできるか、検討したい。

また、横のつながりについて、本市の教育委員会でも学校だけで対応の難しいところを、オルタナティブスクールやフリースクール等と連携できると良いという認識を持ち、取組を進めているところである。こうした意見を参考にしながら、更に具体的に検討していきたい。



身近に子どもの居場所を

（意見）

多様な学びの場や第三の子どもの居場所が増えてきたとはいえ、仕事を持っていると送迎が大変だったり、経済的負担もかかるので、地域ごとに子どもがいられる場所があると良い。

また、子どもと学校をゆるくつなげていくためには、学校の中にフリースペースがあると良い。

愛知県岡崎市では校内フリースクール「F組」を設置しており、教室にいろいろな子どもが学校の中を通える場所を作る取組を進めているので、そうした事例も参考にしてほしい。

就学前の不安を軽減

（意見）

親にとっても、子どもにとっても、小学校への進学は大きな変化である。

発達障害のグレーゾーンに診断された子を持つ親は、公立の小学校に入学できるのか、入学した後の先生との関わりをどうしたら良いのか、子どもの特性を先生にどう伝え、お願いしたら良いのかなど、大きな不安を抱えており、実際、メリーのいえにはそうした相談が多い。

そうした就学前の親子が抱える不安を軽減し安心できるよう、座談会ができるとうと考えている。

支援の手を広げる

（意見）

メリーのいえに来てくれた方は、最初のハードルを越えられた方だと思う。

誰かに相談したいけれど、どこに相談したら良いかわからず、孤立してしまっている方や、その一歩を踏み出せない方に出会うためにはどうしたら良いか考えている。

例えば、学校の空き教室を活用させてもらい、出張メリーのいえとして、こちらから出向く取組を行うことで、つながり支え合える子育て環境が作れると思う。

また、発展的に考え、そうした場が様々な対応に追われている先生方の心を休める場にもなると良いと考えている。

（市長）

進学による環境の変化は大きなストレスになると思うので、そのタイミングでの支援は課題になる。学校内での取組については研究が必要になると思うが、出張メリーのいえについて、保健福祉会館や公民館等を活用してできると思うので、よろしくをお願いしたい。



つながり、支え合う

（意見）

子どもの不登校について、誰が悪いということではなく、学校の現状や環境が合わないだけ、疲れてしまっただけなんだよ、ということを受け止めることが大切なんだというのを、できるだけ早い段階で伝えてあげたい。

思い悩み、自分を責めても良いことはない。誰かがそうした声をかけられるような環境を作り、色々な方法論があることを伝えたい。

（意見）

メリーのいえは桐生市を拠点にしているが、市外からの相談者も多い。その理由は身近であると知り合いに会うからということである。

そのため、市域を超えた横のつながりも重要である。メリーのいえはその場その場で来やすい人に寄り添っている。

（意見）

先生方にメリーのいえに来てもらい、保護者がどのようなことを感じているのかを伝えられる場があると良い。

保護者の方々は、メリーのいえに来て、同じ悩みを抱えている方がいることを知り、共有することでつながり、勇気をもらっている。また、関わる私たちも学べている。こういう活動を続けていきたい。

（市長）

桐生市のいろんな人たちにメリーのいえの活動を知ってもらうことが第一に必要になると思う。県単位でメリーのいえのような取組を行う団体のネットワークがあると良い。

また、メリーのいえをはじめ、団体同士がつながっていることが非常に重要である。

他市の人が相談に来た場合、また、桐生市の人が他市に相談に行った場合でも、そのネットワークの中で、案内し合えると良い。つながり、ゆるやかなネットワークで支え合う仕組みづくりが重要である。

つながり、支え合える子育て環境づくりのために 桐生市と共創したいこと 等



(市長)

本日の意見交換においていくつかのポイントがあったと思うが、不安を抱えている方たちにとって、メンターの方々が実際に体験した話を聞くことは、孤立を生まないために大変重要であると感じた。

様々なケースに対しては、マニュアル通りにいかず、その対応が逆効果になってしまふこともあると思う。そうした場合でも、同じ立場にある人がジャッジせず、不安を抱える方を肯定して、語り合うことで良い方向に向いていくと思う。

(意見)

マニュアルがあり、標準的な対応ができることは重要であるが、そこうまくはまらないケースについて、連携できると良いと考える。

(市長)

私が子どもの野球チームの指導を行っていた際に、野次禁止のルールを作った。エラーや三振をしたときに、なんで捕れないんだ、なんで打てないんだと責めるのではなく、子どもにとって、なんでも初めての経験なんだから、どうしたら次はできるようになるかが重要なんだからと、話し合った。

(意見)

失敗しても良い、うまくいってなくても大丈夫ということ伝えることは重要だと思う。子育ても正解はないということ辛い思いを持っている方を知ってほしい。

(市長)

子どもが心豊かで健やかに成長してほしいということ、誰もが願っていることだと思う。

我々行政に求められていることは何かということ、話し合いながら、その実現のために連携・協力し合い、様々な体験から得た知恵や知識で良い方向に向けて取り組んでいきたい。

本日の意見交換をはじめ、まちづくりミーティングでは、様々な気づきがある。これらをつなげていくことが重要であると考えている。

本市には自発的に様々な取組を実施する団体がある。我々行政も応援していくので、そうした団体もつながり、輪を広げている人たちと連携しながら、取組を継続してほしい。